

# 防災気象情報の名称案の整理

---

## 第7回検討会における議論を踏まえた情報名称の方向性

## 【情報名称の方向性】

- ① 意見聴取の結果として、特に一般向けアンケート調査の結果を重視し、社会に定着した「特別警報」「警報」「注意報」のワードを活かして名称の「横並び」を揃えるイメージ（以下：第7回検討会資料3における「イメージ1」）を基本としてはどうか。

		洪水に関する情報	大雨浸水に関する情報 ※1	土砂災害に関する情報	高潮に関する情報	警戒レベル相当情報以外の特別警報、警報、注意報
		氾濫による社会的影響大の河川（洪水予報河川、水位周知河川）の外水氾濫	内水氾濫及び左記以外の河川の外水氾濫			
発表単位		河川ごと	基本的に市町村ごと	基本的に市町村ごと	沿岸ごと又は市町村ごと※2	基本的に市町村ごと
警戒レベル相当情報	5相当	氾濫特別警報 レベル5	大雨特別警報 レベル5	土砂災害特別警報 レベル5	高潮特別警報 レベル5	警戒レベル相当情報としての位置付け無し
	4相当	氾濫警報 レベル4	大雨警報 レベル4	土砂災害警報 レベル4	高潮警報 レベル4	○特別警報
	3相当	氾濫警報 レベル3	大雨警報 レベル3	土砂災害警報 レベル3	高潮警報 レベル3	○警報
	2	氾濫注意報 レベル2	大雨注意報 レベル2	土砂災害注意報 レベル2	高潮注意報 レベル2	○注意報  例：暴風、大雪等

※1 警戒レベル相当情報への位置づけについては、関係機関で今後検討。

※2 発表単位をどうすべきかについては、情報利用者の視点も踏まえつつ、引き続き関係機関で検討。

- ② 警戒レベルの数字と日本語の順序について、警戒レベルの数字を前に、主役にした名称としてはどうか。
- ③ 洪水に関する警戒レベル5相当情報については、必ずしも横並びにこだわるのではなく、状況が伝わるという観点から、名称に「氾濫発生」のワードも用いることとしてはどうか。
- ④ 市町村が発令する警戒レベル情報（警戒レベル4避難指示など）との混同を避けるため、警戒レベルと警戒レベル相当情報の関係について解説資料等に明示することとし、名称には「相当」のワードは用いないこととしてはどうか。

# 方向性を踏まえた名称の検討

## 【方向性を踏まえた名称の検討】

- 方向性①の基本イメージから、方向性②を踏まえ、レベルの数字を最前に置く。
- 方向性③を踏まえ、洪水に関する警戒レベル5相当情報に「(氾濫発生)」を付す。
- 方向性④を踏まえ、名称に「相当」のワードは用いない。

		洪水に関する情報	大雨浸水に関する情報 ※1	土砂災害に関する情報	高潮に関する情報	警戒レベル相当情報以外の特別警報、警報、注意報
		氾濫による社会的影響大の河川（洪水予報河川、水位周知河川）の外水氾濫	内水氾濫及び左記以外の河川の外水氾濫			
発表単位		河川ごと	基本的に市町村ごと	基本的に市町村ごと	沿岸ごと又は市町村ごと※2	基本的に市町村ごと
警戒レベル相当情報	5相当	レベル5 氾濫特別警報(氾濫発生)	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報	警戒レベル相当情報としての位置付け無し  ○特別警報  ○警報  ○注意報  例：暴風、大雪等
	4相当	レベル4 氾濫警報	レベル4 大雨警報	レベル4 土砂災害警報	レベル4 高潮警報	
	3相当	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報	
	2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報	

※1 警戒レベル相当情報への位置づけについては、今後の課題として関係機関で検討。

※2 発表単位をどうすべきかについては、情報利用者の視点も踏まえつつ、引き続き関係機関で検討。

名称の最終決定は、法制度や実際の情報の運用、伝え方なども踏まえ、気象庁・国土交通省が行う。

## 【課題】

- 警戒レベル4相当と3相当の名称について、いずれも「警報」のワードが用いられている。
- 大雨浸水に関する情報の名称に用いられている「大雨」のワードでは、対象となる現象がイメージしづらい可能性。

# 課題に対する解決案

## 【前頁の課題に対応した名称案】

- 警戒レベル4相当及び3相当の名称について、レベルの数字以外のワードでも区別がつくようにする。  
⇒ 警戒レベル4相当の名称に「**危険警報**」のワードを用いる。
- 大雨浸水に関する情報の名称について、対象となる現象がよりイメージできるようにする。  
⇒ 「**大雨浸水**」のワードを用いる。

		洪水に関する情報	大雨浸水に関する情報 ※1	土砂災害に関する情報	高潮に関する情報	警戒レベル相当情報以外の特別警報、警報、注意報
		氾濫による社会的影響大の河川（洪水予報河川、水位周知河川）の外水氾濫	内水氾濫及び左記以外の河川の外水氾濫			
発表単位		河川ごと	基本的に市町村ごと	基本的に市町村ごと	沿岸ごと又は市町村ごと※2	基本的に市町村ごと
警戒レベル相当情報	5相当	レベル5 氾濫特別警報(氾濫発生)	レベル5 大雨浸水特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報	警戒レベル相当情報としての位置付け無し  ○○特別警報  ○○警報  ○○注意報  例：暴風、大雪等
	4相当	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨浸水危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報	
	3相当	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨浸水警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報	
	2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨浸水注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報	

※1 警戒レベル相当情報への位置づけについては、今後の課題として関係機関で検討。

※2 発表単位をどうすべきかについては、情報利用者の視点も踏まえつつ、引き続き関係機関で検討。

## 情報名称の変更にあたっての留意事項

- 情報名称には、警戒レベル相当情報であることを示す「相当」は用いないが、「警戒レベル」と「警戒レベル相当情報」の関係性が理解できるよう、前頁の表のように「警戒レベル相当情報」であることを明記するなどの措置が必要であるとともに、平時からの十分な解説、周知が重要。
- あわせて、「警戒レベル4 相当情報の発表」=「警戒レベル4 避難指示の発令」ではないことなど、避難指示等の警戒レベル情報は市町村長が状況を踏まえて発令を判断するものであることについても十分な周知が必要。

# 検討会の取りまとめ案

- 「極端な現象を速報的に伝える情報」と「網羅的に解説する情報」それぞれについて統一的な名称を検討する。
- 何に着目した解説情報なのかがわかるよう、名称に「キーワード」を付すこととしたい。

## 【案】 前回検討会でいただいた意見を踏まえて見直し

極端な現象を速報的に伝える情報



名称：気象防災速報（キーワード）

<例>

- 「顕著な大雨に関する気象情報」の発表基準に該当 → 気象防災速報（線状降水帯発生）
- 「記録的短時間大雨情報」の発表基準に該当 → 気象防災速報（記録的短時間大雨）
- 「顕著な大雪に関する気象情報」の発表基準に該当 → 気象防災速報（短時間大雪）
- 「竜巻注意情報」の発表基準に該当 → 気象防災速報（竜巻注意／竜巻目撃）

網羅的に解説する情報



名称：気象解説情報（キーワード）

<例>

- 線状降水帯の発生可能性について半日程度前から解説 → 気象解説情報（線状降水帯予測）
- 台風の実況及び予測について解説 → 気象解説情報（台風第○号）